

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



August													
S	M	T	W	T	F	S							
							1	2	3	4	5	6	7
							8	9	10	11	12	13	14
							15	16	17	18	19	20	21
							22	23	24	25	26	27	28
							29	30	31				

August 2024 vol.124

◆ 米津町蓮台墓地

所在地：西尾市米津町蓮台

交 通：名鉄西尾線「米津」駅 西 約 400m

西尾市の米津町は、江戸時代に徳川家に仕えた米津家の本貫地とされ、駅や神社など、各地に米津の名が残ります。以前には、米津玄師さんの愛知公演に合わせて多くのファンが訪れ、聖地化したこともありました。地勢的には地盤が軟弱な岡崎平野の矢作川近辺に位置し、昭和 20(1945) 年に発生した三河地震でも大きな被害が発生した地域です。

矢作川に架かる県道 12 号豊田一色線の米津橋は、三河地震の強い揺れで落橋しました。橋は地震の前から架け替え作業が行われていましたが、戦争中であったため、橋台と橋脚だけが建設された状態で昭和 16(1941) 年に工事がストップし、仮橋が架けられていました。三河地震ではこの仮橋が落ち一時通行不能となりました。このときの米津橋はその後、戦争と地震を乗り越えて昭和 32(1957) 年に完成し、現在は昭和 63(1988) 年に 4 車線となって全面開通した新しい橋となっています。

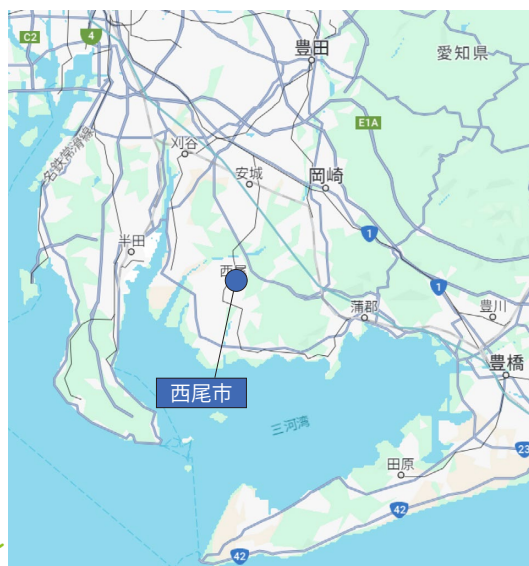
米津橋から 300m ほど北、米津町蓮台の共同墓地には、三河地震の慰霊碑があります。碑の正面には三河地震の被害の全体像とともに、米津部落で死者 53 名、負傷者 60 名、住家全壊 102 戸、半壊 250 戸などの被害が発生したこと、急激な揺れに襲われ屋外に出る暇もなく、暗闇の中、逃げ道を失って家屋の下敷きになった者が多数あったことなどが記され、復旧は成ったものの、亡くなられた方の慰霊のために碑を建立することとしたことが記されています。また、裏面には、災死者の氏名が刻まれています。

米津町蓮台墓地では、慰霊碑を囲むように、災死者として記された方々の個々のお墓と地藏菩薩 30 体が並べられており、墓石に記載されている氏名のうち 30 名が慰霊碑に記載されている氏名と一致しています。墓石の中には、三河地震直後に建てられ、70 年以上が経過する中で劣化が進み、新たに同じ形で作り直されたものもあります。慰霊碑の周辺に墓石があるケースはありますが、米津町蓮台墓地のように同じ場所に数多くの墓石が集められ、慰霊碑と一体となって成立しているものは他にあまり例がなく、実際に現地を訪れて、慰霊碑とともに集められた墓石を目の前にすると、あらためて震災により多くの方が亡くなられたという事実を実感することができます。長い間、地域の人々によって守られてきた、被害の記憶を後世に伝える貴重な遺構であると言えます。

米津橋の下流では、毎年 8 月 15 日に米津の川まつり（裏面参照）が開催されます。まつりでは、三河地震による死者や矢作川での水難犠牲者、戦没者の霊を弔うため、万灯流しが行われます。こうした地域の行事を通じた形でも、被害の記憶の伝承が行われています。



米津橋や米津町蓮台墓地の解説が登場する、災害を今に伝える場所を巡るオンラインツアー『災と Seeing』映像コンテンツ・三河地震にまつわる西三河コース (<https://youtu.be/a295iHg1QMQ>) もぜひご覧ください。



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたととともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしていきたい。

◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

● 白山神社 (vol.56,2018.12)

所在地：西尾市徳次町宮廻

交通：名鉄西尾線「西尾口」駅 東約 1.1km

西尾市の矢作古川に沿った地域には、昭和 20(1945) 年の三河地震の慰霊碑が、数多く建てられています。西尾市役所から 1.5km ほど東にある白山神社には、三河地震における徳次町での犠牲者を慰霊した震災碑があります。

この震災碑は、徳次町の住民が発起人となって昭和 27 年に建立されたもので、地震により徳次町では 26 名の死者、50 名余りの負傷者が発生し、家屋の倒壊は 67 戸、倒壊を免れた家屋もほとんどが半壊に至ったことが記されているほか、亡くなられた方 26 名の名前が刻まれており、犠牲者を慰霊するとともに、この災害を後世に伝えることが建立の目的であることが述べられています。

徳次町で三河地震を体験した方の体験談が「愛知県史民

俗調査報告書 2」の西尾・佐久島編に掲載されています。

体験談を残した方の家族は幸い全員が助かりましたが、建物が倒壊したあと、近所に助けを求めても、誰も助けにきてくれない状況となっていました。また、隣の家描写はもっと壮絶なもので、即死を免れた住人が、余震により徐々に建物の柱が下がってきて、ついに建物に潰され命を失う凄惨な状況も述べられています。

このように、地震のあとは建物に挟まれていても、大けがをしても、しばらくは助けが来ない状況になる可能性があります。また、『隣の家』のような恐ろしい状況になることも考えられます。こうした体験談を教訓に、耐震化や家具固定など、あらためて身の回りの地震対策について考えてみましょう。



◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.56 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

★ 西尾・米津の川まつり

西尾・米津の川まつりは、水難者や戦没者の霊を慰めるために始まったお盆行事で、矢作川の米津橋下流で毎年 8 月 15 日に開催され、今年で第 76 回目を迎えます。

当日は、午後 5 時頃に地元小学生のマーチングバンド演奏でまつりが幕を開け、午後 7 時頃から読経・焼香ののち、万灯流しが行われ、約 1,500 個の万灯が矢作川の川面に浮かびます。午後 7 時半頃からは花火大会が始まり、夜空には約 3,000 発のスターマインや仕掛け花火などが輝き、ロマンチックで幻想的な光の世界が広がります。米津橋南側から上流方向へ向かう道路沿い付近は、迫力満点の近場スポットの 1 つです。米津橋と名鉄西尾線米津駅付近ではキッチンカーの出店もあります。



Aichi Now HP より

～自動車で巡る～

米津橋にほど近い、道の駅にしお岡ノ山は、名古屋から豊橋方面へ向かう国道 23 号の休憩施設です。西尾産の抹茶を使用したモンブラン、学校給食で人気の抹茶トーストやイカフライのレモン煮ドッグなど、地元の物産品の販売や軽食コーナーがあります。隣接する岡ノ山遊ぼっ茶広場にはバーベキュー場や芝生広場、遊具広場などがあり、外遊びも楽しめます。



道の駅にしお岡ノ山HPより

●ブレイクタイム●

♪ 米津羊羹

米津羊羹本舗は、米津橋の北角に位置する、明治元 (1868) 年創業の老舗羊羹店です。素材から製法まで、創業当時から受け継がれてきた丁寧な仕事で、職人の手作り羊羹が作られています。

米津羊羹は、北海道小豆でこしあんを自家製餡した正統派の練り羊羹で、甘さは控えめ、まろやかな味わいで、子どもからお年寄りまで幅広い世代に好評です。羊羹を包む包装紙には創業当時の店舗周辺の風景が描かれ、当時の米津橋近辺の様子を知ることができます。



◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災と Seeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2024 年 8 月)